

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

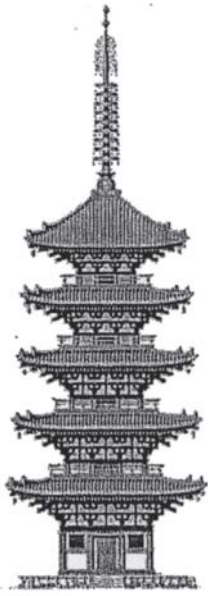
Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。まだまだ暑い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。さて、**お釈迦様の生涯**をお伝えしている今年のかわら版。今月は**お釈迦様の晩年**をお伝えします。

★テーヴァダッタの離反

お釈迦様は多くの弟子と帰依者に恵まれましたが、晩年には辛い出来事にも遭遇しました。高弟のひとり、**テーヴァダッタ**(提婆達多)は**だいたいば**だった)はお釈迦様の従兄弟。教団に厳格な戒律を定めるように提案しましたが、**中庸**を旨とするお釈迦様は進言を受け入れませんでした。

デーヴァダッタは教団を離れ、別の一派を形成。お釈迦様の地位を狙っていたという言い伝えもあります。



また、デーヴァダッタがマガダ国の王子をそそのかし、**ビンビサーラ王**を幽閉させて王位を奪わせたこと記している経典もあります。お釈迦様は人間の性(さが)に直面し、心寂しかったことでしょう。

★シャークヤ国の滅亡

お釈迦様に帰依した**コーサラ**国の**フラセーナジツト王**は、お釈迦様の故郷シャークヤ国から妃を迎えることを熱望しました。当時、シャークヤ国はコーサラ国に従う立場。そのため、シャークヤ国は王姫が嫁ぐことを無理強いされているように感じ、王族と召使の間に生まれた娘を王姫と偽って嫁がせたそうです。その妃と**プラセーナジツト王**の間に**ヴィルダカ王子**が誕生。王子が母の実家であるシャークヤ国を訪ねた際に「召使の子」と言われて辱めを受け、シャークヤ国を恨むようになりました。ヴィルダカは長じて父王を追放し、シャークヤ国に何度も

攻め入ります。お釈迦様は三度にわたってヴィルダカを説得して戦争を回避させました。しかし四度目にはヴィルダカはお釈迦様の説得を聞き入れず、シャークヤ国は滅亡。お釈迦様も諸行無常の現実を受け入れざるを得ませんでした。

★高弟との死別

お釈迦様には**十大弟子**と言われた十人の高弟が師事。それぞれ最も優れた特長を冠して「○**第一**」と称していました。

十人の中でも**二大高弟**として目置かれたのは、**智慧第一**の**シャーリフトラ**、**舍利弗**(しゃりほつ)と、**神通第一**の**マウドガルヤーナ**、**目健連**(もくけんれん)。

二人はお釈迦様に代わって説法を行うほどの高弟で、リーダ―として教団を牽引していました。

しかし、シャーリフトラは赤痢にかかって他界。マウドガルヤーナは暴漢の凶刃に倒れてしまいます。

★教団のお手本

八十歳になったお釈迦様が**霊鷲山**(りょうじゅせん)という山に滞在していた折、お釈迦様に帰依するマガダ国の使者がや

って来ました。使者が「**ヴァッジ国**を攻めてもよいか」と教えを乞うたところ、お釈迦様は「かの国は話し合いと協力の精神を重んじ、法に従い、父母や女性、子供を大切にし、祖先を敬う模範的な国である」として使者を諫めました。

★お釈迦様の入滅

お釈迦様もいよいよ高齢。来月は**お釈迦様の入滅**をお伝えします。乞ご期待



霊鷲山

